

安全データシート

作成 2004 年 11 月 25 日

改訂 2023 年 1 月 20 日

1. 化学品及び会社情報

製品の名称	アンダースプレー液
会社名称	アサヒボンド工業株式会社
住所	東京都板橋区大谷口北町 3 - 7
担当部門	営業部
電話番号	(03) 3972-4929
F A X 番号	(03) 3972-4583
推奨用途	コンクリートひび割れの注入補修。
整理番号	SDS101

2. 危険有害性の要約

化学品の G H S 分類

物理化学的危険性	エアゾール	区分 1
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(ガス)	区分に該当しない
	皮膚腐食性/刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性又は皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	区分に該当しない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 3 (麻酔作用)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分に該当しない	
誤えん有害性	分類できない	
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない

* 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

G H S ラベル要素 絵表示



注意喚起後 危険

危険有害性情報 (H222) 極めて可燃性の高いエアゾール

(H229) 高圧容器：熱すると破裂のおそれ

(H336) 眠気又はめまいのおそれ

注意書き

【安全対策】

(P210) 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

(P211) 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。

(P251) 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

(P261) 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

(P271) 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

【応急措置】

(P304+340) 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

(P312) 気分が悪いときは、医師に連絡すること。

【保管】 (P410+P412) 日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。

(P403+P233) 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

(P405) 施錠して保管すること。

【廃棄】 (P501) 内容物や容器は国・地方の許可を受けた産業廃棄物業者に委託し廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

化学名又は一般名

危険有害成分	濃度(%)	CAS 番号	官報公示整理番号
アクリル樹脂	3.5～8	非公開	既存化学物質
シリカ質粉体	0.75～1.5	非公開	既存化学物質
水	65～75	7732-18-5	天然物扱い
ジメチルエーテル	30	115-10-6	(2)-360

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を空気の新鮮な場所に移すこと。

多量の水でうがいをさせること。

呼吸が不規則になった場合又は停止した場合には、人工呼吸を施すこと。

気分が悪い時は医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類と靴を脱ぎ、直ちに多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚の炎症やアレルギー性反応が起きた場合には、医師の診察を受けること。

眼に入った場合

直ちに多量の水で洗浄する。最初の洗浄後、コンタクトレンズを外し、少なくとも15分間は洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合は医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。直ちに医師の診察/手当てを受けること。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

液化ガスが噴出している場所では、空気中の酸素濃度の低下及び火災・引火の可能性があるので換気・散水を行い必要に応じて陽圧式空気呼吸器を着用する。皮膚に付着しないように保護具を着用する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 粉末、泡、炭酸ガス

使ってはならない消火剤 データなし

火災時の特有の危険有害性 不完全燃焼及び熱分解により、一酸化炭素、二酸化炭素、各種炭化水素、アルデヒド及び煤煙などの毒性ガスが発生する恐れがある。

特有の消火方法 火元(燃焼源)を断ち、空気呼吸器等適切な保護具を着用し作業は風上から行う。

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置 空気呼吸器等適切な保護具を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護用具及び緊急時措置

直ちに全ての方向に適切な距離を漏洩区域として処置する。

取り扱う時は、乾いた皮手袋を着用する。

漏洩噴出した液化ガスが気化した時、酸素濃度が急低下し酸欠の危険性がある。

環境に対する注意事項 環境中への放出をさける。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

風下の人を退避させ、付近の火気に注意し通風等により換気を良く行う。

二次災害の防止策

周辺での着火源(高温物、火花、裸火、電気を含む火気等)の使用を禁止する。窒息性、麻酔作用を持つガスであるため、漏洩したガスが滞留しないように換気を良くする。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い 容器は乱暴な取り扱いをしない。

技術的対策 容器の周囲には、引火性、発火性及び可燃物質は置かない。

安全取扱注意事項 屋内での取り扱い時は換気に注意し必要ならば局所排気装置を設置使用する。容器を熱すると爆発のおそれがある。

接触回避 液状で噴出するガスには触れないこと。

酸化性物質との接触を避けること。

保管

安全な保管条件 降雨、降雪、直射日光や熱源を避け、40℃以下を保つ。

容器の周囲には、引火性、発火性及び可燃物質は置かない。

安全な容器包装材料 データなし

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

日本産業衛生学会(2018年度版) 「ジメチルエーテル」設定されていない。

A C G I H

「ジメチルエーテル」設定されていない。

設備対策

屋内作業場には排気装置等の換気設備の設置。

作業場近くへの手洗い場、洗顔設備の設置。

保護具

呼吸器の保護具 防塵マスク。必要に応じて陽圧式空気呼吸器を使用する。

手の保護具 保護手袋

眼、顔面の保護具 眼鏡型保護メガネ

皮膚及び身体の保護具 前掛け等。袖及びズボンの裾より肌を露出させない。

特別な注意事項

9. 物理的及び化学的性質

物理状態、色	乳白色の液体
臭い	僅かなアクリル臭
融点/凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし。「ジメチルエーテル」-23.6℃
可燃性	点火性あり
引火点	データなし。「ジメチルエーテル」-41℃
自然発火点	「ジメチルエーテル」350℃
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解性	水への溶解性：「ジメチルエーテル」7g/100cc
n-オクタノール/水分配係数(log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	0.90±0.02g/cm ³
相対ガス密度(空気=1)	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	高温下でも不活性雰囲気では熱的に安定である。 中性、希薄な酸性及びアルカリ性溶液においても安定である。
化学的安定性	酸化性なし。40℃以上になると缶が破裂するおそれがある。

危険有害性反応可能性	気体、空気の混合気体は爆発性するおそれがある。
避けるべき条件	高温の物体、火花、裸火、静電気、加熱。
混色危険物質	強酸化剤、火気等。
危険有害な分解性生物	火災時の燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素などの有害ガスが発生する。

11 . 有害性情報

以下は「ジメチルエーテルの有害性」に関する。

急性毒性	経口 データなし 軽皮 データなし 吸入(ガス) 区分に該当しない ラット LC50 164000ppm (DFGOT(vol. 1, 1991), Patty(5th, 2001)) ヒトに対する毒性 7.5vol% ; 軽い不快感が起こるが外観的に変化なし。 8.5vol% ; 21.5 分後、均衡障害、運動不調、視覚錯乱など。 14.0vol% ; 23 分で麻痺、26 分後には失神状態になる。
皮膚腐食性/刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなし
亜急性毒性	吸入ラット 10,000ppm/4 週間、悪影響なし。 20,000ppm/15 週間、悪影響なし。
慢性毒性	吸入ラット 20,000ppm/30 週間、肝臓に対する毒性の兆候あり。 20,000ppm/104 週間、影響のない濃度レベル。
生殖細胞変異原性	相対的にデータ不足とし分類できない。 サルモレラ菌 119,000ppm/48 時間、変異原性なし。 ショウジョウバエ 28,000ppm/14 日間、突然変異性なし
発がん性	分類できない。
生殖毒性	区分に該当しない
催奇性	吸入ラット 28,000ppm/6~15 日間、催奇性なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 3 (麻酔作用) ウサギの吸入試験(45 分)及びイヌの吸入試験(5 分)において麻酔作用、血圧、心拍数の低下の記載、又ヒトにおいて意識喪失、視野喪失、痛覚喪失などの神経系の影響記載 (DFGOT(vol. 1, 1991))より区分 3 (麻酔作用)とされる。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
誤えん有害性	分類できない
その他の情報	液化ガスが眼に入ると失明のおそれ。 凍傷。 空気と置換することにより単純窒息性ガスとして次のような作用をする。

空気中の酸素濃度(%)	酸素欠乏症の症状等
18	安全下限界だが、作業環境の連続換気、酸素濃度測定、安全帯、呼吸保護具の用意が必要。
16~12	脈拍・呼吸数増加、精神集中力低下、単純計算間違い、細密筋作業拙劣化、筋力低下、頭痛、耳鳴り、悪心、吐気、動脈血中酸素飽和度 85~80%(酸素分圧 50~45mmHg) でチアノーゼがあらわれる。
14~9	判断力低下、発揚状態、不安定な精神状態(怒りっぽくなる)、ため息頻発、異常な疲労感、酩酊状態、頭痛、耳鳴り、吐気、嘔吐、当時の記憶なし、傷の痛

	み感じない、全身脱力、体温上昇、チアノーゼ、意識もうろう、階段・梯子から墜落し、瀕死の危険性。
10～6	吐気、嘔吐、行動の自由を失う、危険を感じても動けず叫べず、虚脱、チアノーゼ、幻覚、意識喪失、昏睡、中枢神経障害、チェーンストークス型呼吸(ゆっくりした、深い呼吸)出現、全身けいれん、死の危機。
6以下	数回のあえぎ呼吸で失神・昏倒、呼吸緩除・停止、けいれん、心臓停止、死。

12. 環境影響情報

生態毒性

区分に該当しない(ジチルエーテル)

魚類(グッピー)96時間 LC50 > 4000mg/L (IUCLID, 2000)

甲殻類(オオミジンコ)48時間 EC50 > 4000mg/L (IUCLID, 2000)

残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

環境への放出をさけること。

許可を受けた産業廃棄物処理業者へ処分を委託する。

エアゾール製品は、焼却処理を行わないこと。また、中身を完全に使い切り、火気のない戸外で噴射音が消えるまでボタンを押し、ガスを完全に抜いてから捨てる。

中身の入ったものは絶対に廃棄しない。

ガスを抜く際には、火気及びミストの吸入などに注意すること。

汚染容器及び包装

使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

14. 輸送上の注意

国連番号	1950
品名(国連輸送名)	エアゾール、可燃性
国連分類	区分2.1
容器等級	該当しない。
指針番号	126
海洋汚染物質	該当しない。
国内規制	
陸上輸送	高压ガス保安法による。
海上輸送	ガス類、引火性ガス、分類2 区分2.1
航空輸送	高压ガス、引火性ガス、分類2 区分2.1
特別の安全対策	保護具、消火器を携帯する。容器の転倒、落下、破損が無いよう積載し荷崩れ

防止を確実に行う。

15. 適用法令

消防法	「ジメチルエーテル」第4類引火性液体、特殊引火物
化審法	既存化学物質リストへの収載 第1種特定化学物質及び第2種特定化学物質に非該当 監視化学物質に非該当
化学物質管理促進法(PRTR法)	非該当
毒物劇物法	非該当
労働安全衛生法	名称等を表示すべき有害物： 非該当 名称等を通知すべき有害物： 非該当
高圧ガス保安法	このエアゾール製品は容器内容積が1リットル以下、及び温度35℃において圧力0.8MPa以下、かつ高圧ガス保安法施行令関係告示第四条第三項に該当するため、高圧ガス保安法の適用除外となります。

16. その他の情報

参考文献	1) JIS Z 7253(2019) 2) 原料メーカー発行の安全データシート 3) 日本化学工業会「緊急時応急措置指針」
------	--

「記載内容の取扱い」

記載内容は現時点で入手できた資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、含有量、物理・化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保障をなすものではありません。また、注意事項は通常の見取り方を対象としたものなので特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全策を実施の上ご利用下さい。